_	_	_	_	_	_	_	_	
義元尾張発向之事	大高城兵粮入之事	岡崎一門中家老衆、義元『詔事	竹千代殿御軍始之事	竹千代殿駿州在府并御供衆事	義元安祥城攻并竹千代殿御帰国	廣忠御逝去之事	岡崎駿府一味之事	伊東於岡崎書之
_	_	_	_	_	_	_	_	_
一宮城後攻之事	長沢城落居之事	三河衆逆徒之事	軍法御相伝并御名乗替事	元康卜信長和睦之事	西三河西尾城落居之事	信長領分城々合戦之事	元康与氏 實 御手切之事 (右に同じ)	元康岡崎御帰城之事(本文に特別項目立なし)

吉田城明渡事

佐和木八幡取出落城之事 (譽)

家康与晴信国切兼約之事

懸川落城^并浜松城明渡事

代

岡崎駿府一味之事

之 士 数 多 有 **|** 1 ^ **|** Ŧ 阿 部 大 藏 • 松 平 弥 九

郎

徳 Ш 四 郎 源 廣 忠 **|** 申 奉 八 河 玉 畄 祫 城 =

其外五六人供仕致、堪」難奉公仕、其後大藏((供性水))

藏 人 丞 仰 ケ ル 八 冏 部 大 藏 子 弥 七 郎 清 康

居

住

マシマ

ス、

然

=

御

門

J

内二御

伯

父

松

平

駿

河

ヱ

下

IJ

今

Ш

義

元

고

樣

々

申

上

 \equiv

州

Ŧ ヱ 我 ヲ 移 シ 置 大 久 保 新 八 郎 才 覚 ヲ

ヲ 討 奉 `` 其 弥 七 郎 親 J 大 藏 = 出 頭 御 サ セ

テ 弟 甚 四 郎 • 弥 \equiv 郎 • 林 藤 五 郎 • 成 瀬

又

以

侯事謂ナシ、追払セ可▷給之旨度々御異(☞ ఠౢ┝ဨ)

太 郎 • 八 或 甚 六 郎 • 大 原 佐 五 右 衛 門 味

見 有 廣 忠 J 仰 = 八 我 若 年 テ 清 康 = ヲ

致 シ、 松 平 藏 人 八丞 二心 ヲ 合、 畄 崎 之 城 ヱ 本 意

ク 櫻 井 内 膳 八 袓 伯 父 ナ レ **|** Ŧ 我 ヲ 立 出 シ

致 事 右 之 者 共 忠 功 **|** 八 申 ナ 力 ラ 大 藏 Ŧ

IJ
立 侯
故 ト
存 ル
上 ハ 大
藏 二
無沙汰
成間
敷由
去
去程二松
平藏
人丞
八急
駿州マ
馳下
IJ 、
今

Ш

府

御 挨 拶 也 夫 \exists IJ 御 伯 父 甥 J 御 中 不 和 = 殿 ヲ 頼、 出 崎 ヱ 毛 頭逆 心 ナ + 通 被レ 申 間 駿

成 セ 給 フ、 人 \exists IJ 右 旨 ヲ 岡

其 上 藏 丞 八 大 身 ニ テ 我 儘 人 之 趣 崎 ヱ 委 細 被仰越(仰を越サレ) ケ IJ

也、 果シテ逆心有ヘキト依見及二、(晁グニ依り) 今 川 義 元 則 廣 忠 \exists IJ J

御 反返 及 答 同) 二 八 藏 人 丞 儀 舎 弟

御 使 者 ヲ 以 テ 其 方 義 重 テ 畄 崎 고 入 間

ヱ

為名代被指遣

`

其

後

吉

田

辺

迄

帰

路

J

刻

両

人

病

死之刻

可

り有名

跡

1

力

ン

|

存

砌、

某 二

敷 是 非 J 沙 汰 ナ ク 被 レ 致 私配(支配) 跡 ヲ 絶 シ 被

等 下 々 之 者 | Ŧ マ テ 申^(申シ上ゲラルル) 八 重 テ 畄 崎 ヱ J 本 意 罷 成 マ シ 丰 **|**

由

被仰遣のサル)

=

付

テヽ

郎

日 比員 住 馴 シ 畄 崎 ヲ 立 退 ケ IJ ` 爰 二 張釒 崎 J 有 ケレ Ń 義

元モ此上 八 トテ取合ナシ、 夫ヨリ

勝 万 寺 八 乱 妨 不 λ 之 地 ナ レ 八 是 ^ 被引輸ラル) 藏 人 丞 八 尾 州 고 浪

人 シ、 織 田 備 後 守 ヲ タ J

Ξ 本 望 ヲ **|** ク ^ + | テ 平 手 中 務 太 輔 ヲ 以 藏 人丞、 上 和 田

ノ取手二八松平三左 衛 菛 尉 此

両

テ 申 寄 趣 八 西 河 覚 J 侍 数 多 召 具 シ 牢

人 = 織 田 備 後 守 古 参 之 侍 共 ヲ 相 加 ヱ 在

番

人

(仕侯、 於被拘置 Ń 三河八案内存知ノ国

ナ

1

シ テ 畄 崎 領 分 ^ 押 〉 作 毛 ヲ ナ + ス テ 民

レ 八 御 先 手 仕 則即 時 伐 捕 御 手 = λ 可 レ

申

|

屋

ヲ 放 火 ス ル 事 晝 夜 J 境 Ŧ ナ ク 取 詰 ラ

レ

申 ケ レ Ϋ́ 織 田 備 後 守 聞 Ŧ ァ ヱ ス 今 度 Ξ 州

ケ

IJ 、

去

程

=

畄

崎

=

テ

八

僧

俗

百

姓

等

=

至

マ テ 及難儀 議 議 張 八 漢 後 ` 各 集 テ 評 定 有 ケ ル 八 か 樣 =

IJ J 牢 人 不 レ 残 可被拘(抱ラルベシ) **|** テ 五 + 余 騎 召

 \exists

於被取詰 八 畄 崎 分 ニテ 戦 時 難 レ 叶

義

也

出 シ 扶 持 方 馬 J 餇 料 以 下 マテ 給 ル 夫 \exists IJ

駿 府 ヱ 申 今 Ш 義 元 \exists IJ 加 勢 ヲ 申請

畄

崎

城

=

指

向

方

々

付

城

ヲ

拵

右

之

牢

人

衆

ヲ 先 陳原 ト シ シ テ 働 ケ IJ 畄 野 J 取 手 二八 松 平

上 和 田 • 畄 野 之 両 城 ヲ 打 破 IJ 其 上 尾 州 ヱ

打テ出、丹下・中嶋其外ノ城々ヲ責破リ申	岡崎衆、尾三ノ境目兼テ案内ノ事ナレハ先
ニ付ァハ岡崎領分全ク可レ有ト各評定仕ル	陳有へシ、其儀ニヲイテハ此方へ証人ヲ給
廣忠モ御合点有テ則条数ヲ以ァ石川安	ヘシト有ケリ、両使則岡崎¤帰参致シ義
芸守・天野甚右衛門ヲ使者トシテ 被仰遣	元ヨリ反答ノ通委細ニ申上也、然ニ竹千代
ケル、両使則葛山播磨守・岡部次郎右衛門	殿六歳ノ御年、駿府証人トシテ天文十六年殿六歳ノ御年、駿府証人トシテ天文十六年
※源長老ニ右ノ旨申渡ケリ、則義元 = 披	¬未八月二日、岡崎ヲ出サセ給ケリ、御供ノ
露被レ致、各評定有テ御及答ニハ岡崎ヨリ	人々二八平岩七之助・同助右衛門・阿部善九郎
承コトク岡崎加勢ノ事ハ不及申ニ領内	同新四郎・榊原平七郎・天野又五郎・村越平
三ヶ国ノ以軍勢ヲ尾州表ェ出張スヘシ、尤(軍勢ヲ以テ)	三郎・江原孫三郎、其外雑兵五十余人ニァ

西郡ヨリ舟=召吉田=着セ給所=塩見坂=
上度事有テ参テ侯、今
っ度戸田弾正御縁

仮 屋 ヲ 建 戸 田 弾 正 御 馳 走 申 广 サ テ 某 力 タ ル 好 ヲ 忘 レ 邪 = 逆 意 ヲ 含 織 田 備 後 守 方 ヱ

内

者

館 ヹ 御 立 寄 可被下 之旨 申 = 付 田 原 ヱ 御 通 被 レ 申 趣 Ϋ́ 西 三 河岡 崎 城 主

廣 忠 ノ 子 息ヲ

舅 ニ テ **座** (マシマセ) 八 樣 Þ J 御 馳 走 残 所 ナ + 次 第 河 ケ 国 J 軍 勢 ヲ 以 テ 尾 州 表 고

供

仕

御

着

座

也、

此

弾

正

|

申

八

廣

忠

J

今

J

駿

府 ヱ

被

レ

明

越、

其上義

元領内駿

河

遠

江

元 来 古 郷 畄 崎 之 者 々 J 城 槨 鄭 ヲ 責 朩 ス ^ + **|** 内 談 有 テ 人 質

細 有 テ 牢 人 致 シ、 今 八 尾 州 林 佐 渡 被指越 侯 ヲ 田 原 = 留 置 申 也 無 レ 難 駿 府 ヱ

ケ ル 力 古 主 J 筋 目 ヲ 存 今 度 竹 於被参着 八 忽 御 領 分 고 難 義 出 来 可 レ 申 侯

守

ヲ

頼

居

也

シ

力

子

ナ

IJ

爰

=

森

平

太

|

テ

千 代 殿 御 供 衆 方 ヹ 忍 来 テ 乍 レ 恐 竊 = 申 扨 又此 証 人 尾州ヱ 於引取(八三 河 ノ国 八 、無」程

所

令出張せシメ)

渡トノ兼約也、則 備 州ヨリノ両使八当城二ノ丸廛	其上三河国安堵ノ上八東三河不残可相其上三河国安堵ノ上八東三河不残可相	当座ノ礼物トシテ鳥目五百貫文被レ送ケリ	守両人ヲ田原ឧ被△遣ケリ、戸田弾正方ឧハ	サスト悦、急可引取トテ林佐渡守・岩室長門	弾正方ヨリ申来 ニ 付ァ、織田備後守流 ニ 棹	点座八計策ヲ廻シ人質ヲ尾州ヱ可▷越ト戸田(マシマセ)	オイテハ東三河ハ可令某領知其段御合(薬ニ領知セシムベシ)	尾州へ御シタカヱ可被成事無レ疑侯、サアルニ(ﮔ೯ラーヒィキ)
ケル所二漸ク五更ノ天モ明ユケハ、戸田弾正	告知スル者ノ可為空言ト各驚気色モ無リ	ナリ、息女も岡崎ニの座の事ナレハ争逆心有へキ(マシマス)(マカテカ)	供ノ面々此由ヲ聞テ、弾正殿ハ廣忠ノ御舅	細二告知セテ、其身八佐渡守カ宿所ュ帰ル、御	両使御跡≒乗ケイコ有ト儀定申ナリト委(譽圏)	殿#御供衆ヲ乗給ヘシ、一艘ニハ尾州ヨリノ	申トテ大船二艘迄用意致侯、一艘二八竹千代	二罷在侯、明未明ニハ舟ニテ熱田表ュ送リ可」

見ナレヌ人々御迎ニ出向ヒ、爰ヤカシコニ起ナク熱田ニ着セ給フ、舟ヨリ上ラセ給ヘハ、イツを 角反答申内ニ 漕械 ヲ早メ 漕 行 ハンハ、兎角反答申内ニ 漕械 ヲ早メ 漕 行 ハッカット の で	敷侯、何レノ湊迄也共舟ニ召レ侯へシ、風替リニテ侯、又是ヨリ舟ニテトノ仰八如何アルニテ侯、又是ヨリ舟ニテトノ仰八如何アルニテ侯、又是ヨリ舟ニテトノ仰八如何アル
出テ跡ヲ急度見反ハ、是ヲケイコノ	参レ、ソレヨリ駿府迄陸地ヲ供申セ、トノ事
サレマシキトテ舟ニ召セ御供申也、湊遥ニ漕	平七郎申ケルハ、岡崎ヨリ吉田迄八舟ニテ
サモ真シケニ申サレケレハ、各ヨモ偽リテハ申(マロト)	モ静二侯、御舟ニ召レ侯へ、ト有ケル処ニ榊原
ナ八陸ヘアカラセ給フヘシ、某の悪い計申間敷	八御座所『被」参、イカニ御供ノ衆、今日八浪風

並 居 タ IJ 早 跡 舟 J 衆 Ŧ 着 テ 皆 々 陸 ュ 上 IJ 1 カ Ŧ シ テ 忍 落 行 テ 畄 崎 ヱ 参 書

ケ 'n 中二モ大将 | · 見 ヱ シ 人、 御 供 J 衆 二向 ^ + 樣 J · 有 ザ レ Ń 見 タ ij

シコ -ク 委 細 申

札

ヲ

認

|

テ 申 ケ ル 八 畄 崎 之 事 八 尾 張 **|** · 依御一味二(御一味二)

上

三

、 トテ遣ケ ル 翌日又五郎力郎 等、、 畄 崎

御 証 (人^{質)} トシテ 爰 許 고 引 取 申 儀 ナ 'n 各 御

ヱ

参リ 右 ブ 趣 申上ル 処二廣忠 間(#コシメシ) **召** 有 無 J

気 遣 ナ ク 御 供 被レ成 侯 トテ 熱田 J 大 宮 司

言 葉 Ŧ ナク、 良^{ヤヤ} 有 テ 家 老 J 面 々 = 仰

御

λ 奉 、 御 供 衆 上下二至迄 人 Ŧ 漏 サ ス ケル

所

ヹ

Ϋ́ 北ノ方で参り、 乳母二弾正逆意 J · 通 語 語

体 元 二 警 固 有 ケ レ Ń 御 供 ノ人々唯 ア + レ タ ル

テ 聞 ゼヨ、ト仰ラレケレハ、 則両人御末マテ伺

有 樣 ニテ **|** 朩 ウ ナ + テイニソ見 ヘニケ IJ +

申所二女房達二三人一 間所で出ラレケレ 今 度

時、 天 野 又五 郎、 郎 等ヲ 近付申 ケ ル Ϋ́ 汝 八

弾

正 殿 企 の 樣 ア IJ J 侭 = 申 ケ IJ 乳 母 J

申サレケルハ、竹千代殿御母公八刈屋ノ水野	
ヱ、アスハ我身ノウヱ、因果ハ車ノ輪ノコトクト	

殿 御 息 女 ナ IJ ケ レ 八 貴 Ŧ 賎 Ŧ 継 子 継 母 J 昔 ∃ IJ 申伝ヱ 侍 八 御 身 ノ 行 未如 何 ア ラン

御 中 ナ レ 八 御 存 知 有 テ J 事 ヤ **|** 人 、 セ ニ ・ 被 1 思召ツ、ケ給フニモ御泪セキアヱ

サセ給

バス

進

推量 進 センモ恥シキ御事ニテ侯、 其通 具 (ツブサ) 廣 忠、 家老ノ面々ヲ召 義 元

可申上侯トテ入給、(増シ上グベク) 御内室八聞召レ、 イカナル ス ^ + カ 1 有 ケレ 八 各不移時日被仰遣(時日789世ズ仰セ遣ワサレ) へ此旨ヲ注 可

親 J 御拵ソ ヤ、 竹 千 代 殿 ヲ 敵 方 ヱ タ 八 力 IJ 然 侯 **|** 申 上 ル ニ 付、 則 石 Ш 安芸守 ヲ 以 テ

ラル \ 上八 最 早 岡 崎 トハ 手切也、 サ ア 八 仰セ遺ハサレ) ケル、 義元聞召レ驚給ヒテ、 イ カ

進

セ

我 身 ヲ ŧ 敵 方二捨 置 ル \ 物 ナ 'n 親 ナ 力 ラモ 之心 底 察 λ 畢(オワン) ヌ、 義 発元 ニヲヰテ 無 念 至

筋 目 違 セ 給 フ 御計 カ ナ、 今 日 八 人之身 ノウ 惜 + 次 第 也、 早 東連 注 進 之 段 誠 以 真 一リ誠 実 之

被

相違ナク岡崎ェ奉御帰城成守立可申ト云ル(御帰城成シ奉リ)(守立テ申ス可シ)	ワタリノ城主鳥居又次郎討取之畢
ケルハ、織田備後守トー身有テ竹千代殿ヲ	死ナリ、源七郎ヲハ松平清兵衛討取、外記ヲハ
川伯耆守・本多肥後守・天野甚右衛門尉申	ニヶ鳥居源七郎・松平外記・松平喜藏三人討
門家老ノ面々差集テ評定有ケリ、中ニモ石	松平藏人丞方ノ衆ト散々ニ戦、其時岡崎方
ナク成ニケリ、扨、アルヘキニテアラサレハ御一	十八日、岡崎衆三州ワタリカワチュ押寄セ
消テ破窓ノ雨ニ向ランモ 角 ヤト覚テ頼方	出陳有ヘキトノ義ナリ、去程二同年 九月二(ヒメントンサン)
御逝去被成畢、去程ニ岡崎ニテ八闇夜ニ燈	存ノ程家老ノ面々思フ所ナレハ是非トモ
天文十八年。酉三月六日、廣忠二十五歳ニテ(1至四九年)	弥太郎ヲ岡崎¤被▷遣ケリ、今度廣忠御所
廣忠御逝去之事	至満足不納侯、則駿府ヨリ為御届朝比奈(キーメキッス)

石 Ш 安 芸 守 酒 井 雅 楽 助 申 ケ ル 八 既 今 Ш 到 ナ IJ ケ ル 織 田 備 後 守 千 余 騎 ヲ 以 テ 馳

向

義 元 八 領 内 三 ケ 玉 ニテ 四 万 余 騎 之大 将 ナ レ 五 分 J

三八 義 元 勝 利 無レ之、 兎 角 尾 州 1 味

八義元ヲ以テ本意サセ可」申ト云ル処二、植村

有レ之八早速可為御帰城ト申ケル、然トモ終(御帰城タルベシ)

ラハ早東可為御本意、去ナカラ駿

河

由

義

元

聞

召

駿

府

 \exists

IJ

出

崎

=

在

番

可

然

|

味

ァ

出

羽

守

鳥

居

伊賀

守其外

面

々云ルハ、

尾

張

|

=

評儀八不定処二、不慮二廣忠御逝去之

|

手

切

ァ

ラ

八

 \equiv

ケ

玉

J

軍

勢

ヲ

以

テ

取

詰

ラ

テ

朝 比 奈 備 中 守 • 出 部 次 郎 兵 衛 • 鵜 殿 長 門

レナハ忽難義二及ヘシ、 併 軍ノ勝負ハ勢ノ多

守 ヲ 初 **|** シ テ 義 元 近 習 J 侍 百 余 騎 籠

少ニヨルヘカラス、去ル天文十一年王寅八月十

レ ケ ル = 依 テ ソ レ \exists IJ 是 非 ナ ク 出 崎 八 駿

置

日 小 豆 坂 ノ 合 戦 = 駿 河 勢 八 四 万 余 騎 之 着

ヲ守ヶ居ケルナリ

府

於駿府義元、家老之面々ヲ召テ仰ケルハ、西

心モ臆シ士卒ノ気モ案ニ相違スル物ナリ、 遮(サトザロ)

三河ノ儀ハ徳川普代ノ地也、然所ニ今度廣忠

テ

国之境ヲ踏越合戦スヘキト也、其上織田

被死去

`

嫡

子

竹千代

八

尾

州織

田

備

後

守

方

고

備後守、去春相果、嫡子上総介信長トテ生年

去秋引奪ルヽナレハ、是ヲ幸トシッ竹千代ヲ

十六歳、近比ハー門之中モ不和ニシテ他ニ向

先 立 尾 州 \exists IJ 出 崎 表 ヱ 出 陳 致 八 徳 Ш 門

軍

J

勝

負

八

鑑

Ξ

有間敷

折

柄

ナ

レ

八

急

此

方

ヨリ出張スヘキカト有ケレハ、※源長老・朝比奈

普 代 J 者 共 八 願 フ 処 J 幸 -. 悦、 尾 張 勢 ラ可引

松井等モ尤可レ然旨申上ル、義元重テラケ

不 Δ残可討果、ソレヨリ当国ュ働来へキ事疑ナシ

其上此方ヨリ

為 守 守 (守トシテ)

防二入置

在番

J

者ヲモ

ルハ、去ル天文十一年寅ノ八月、領内三ケ国ノ軍(「五四二年)

テ

向可」然ト申上ラレケル、義元、弥、機嫌、克、座、兎(マサロマサ) (サクマシマス)	若取得ヌ事ナラハ熱田ヲ打破、竹千代共ニ
寒気ノ時分ナレハ重テ諸勢ヲ卒シテ御発	寄、大宮司所『預置タル竹千代ヲ引取ヘシ
ヲ被指添被▷遣候テモ罷成義ニㇷ゚候、殊更(増シンルットン)	落シ、ソレヨリ尾州和田郡『出向テ熱田表』押
御出馬二、御名代ニ御旗本ヨリ少々御人数	安城之城主織田備後守次男三郎五郎ヲ責
陳八徳川殿御子息可被引取行ナラハ不レ及(テルタットンキ)	也、諸卒八岡崎『馳集軍評定ヲトケ、西三河
レケレハ、※源長老進出被▷申ケルハ、今度ノ御	ナリ、今度八不慮二馳向テ可雪会稽ノ恥ヲ(会稽ノ恥ヲソソグベキ)
州境目ノ侍共ハー予ー参降人トナルヘシト仰ラー・テラカジメ	不慮 二味方討敗帰陣セシ事誠ニ口惜次第
ノ者ヲ城主ニシスヱ置、岡崎堅固ニ持ナラハ尾	後守、仮勢ヲ催テ小豆坂ឱ出向テー戦ニ及刻
討モシ、岡崎普代ノ者共ヲ追放シ駿府近習	勢ヲ卒シテ天下ヲ 心 指 、打テ登所ニ織田備

角面々陣触イタセト有ケレハ、	
各相集テ先陳	
ノ軍ハ我々ノ身ニ懸リタル事ナレバ先陳ハ某	

評 定 シ ケ ル 旗 本 J 軍 勢 七 千 余 騎 ヲ + 共 申 請 度 **|** 被 申 ケ Ń 各 聞 給 テ 畄 崎 衆 被

手 一分テ、 扨 畄 崎 Щ 中 · 之 近 所二在 陳 ス ^ シ 申 分尤、

可以然地之遠近万事二於 テ当 国 案 内

物 頭 八 + 月 五 日二岡 崎 城 = 馳 集 テ 備 役 所 J 義

ナレ 八 追 手 表 ノ責 П 番 二岡 崎 衆、

番

ヲ 定 ムヘシ評 .. 義 事終 テ、 松井 • 朝 比 奈名代 **|**

=

朝

比

奈

備

中

守

組

•

近

習

衆

•

糁

源

長

老、

搦

手

シ (三五四九年) 月 朔 日= 駿 府 ヲ 打 立 本

八

鵜

殿

長

門守

組

•

畄

部

五

郎

兵

衛

組

南

表ニハ三

浦 左馬 亮 葛 Щ 播 磨守、 北 八 ... 尾 豊 前守組、 扨

坂 ・今切二手三分レテ押ニケリ、 同四四 亘 二岡 崎 主着

又丹 下城 善照 寺城 中嶋 此 三ヶ所・ ノ押エト

翌 日 五 日= 物 頭 J 面 々 軍 評 定 有 ケ ル 畄 崎

=

門

衆

家

老

J

面

々

進

出

テ

被

申

ケ

ル

Ý

今

度

寄

合

ノ 組

都

合其 勢 二万余 騎、 松 井 大 将二定

備ヲ立ル、
角 ^{(斯}
テ時刻ヲ移シテハ信長後攻有
ス間敷ソト宣ケル、
扨城中ノ面々取籠ラ

レ

^
シ
<u> </u>
テ
明
ル 六
日
J
未
明
3
リ
安 祥
城
7 3 0 卫
押
テ
テ ハ
テハア
ミノ
テハアシカリ
ミノ
シカリナントテーノ城戸ヲ開、ニ
シカリナントテーノ城戸ヲ

寄 四
角八
方 ヨ リ
稲麻竹
葦之コ
コトク
二 打 囲
指出テ
合戦
/ 仕場コ
定ケル
赤
川彦右衛門
門

ナ

八

是

ヲ事

共

セ

長

後

攻

味

陣 朝 比 奈 力 備 λ 替 テ 戦 タ ń 義 元 近 習 J 者 立ラレ シトヤ思ケン備ヲ立 カヱント シケ ル 所

共八指詰引詰射ケル程ニアタ矢八更ニ無リケ

勝鬨ヲ上テ突懸リケレハ、左右ナクーノ城戸

リ、敵ハ是ニ射シラマサレテ少退処ニ、弓手ニ

ヲ押破リ三ノ丸マテ押詰ケリ、去程ニ諸勢ハ

京・本多豊後守・小栗助兵衛・酒井左衛門尉・石

扣

タ

ル

畄

崎

衆 二松平主殿

助

同

勘

匹

郎

•

同

右

二ノ丸ヲ乗越塀ヲ引破リ我先ニト込入タリ、

手

死人八敵モ味方モ見エ分ス、爰二※源長老

負

川安芸守・同彦次郎・村越平三郎・同次郎八・

敵ノ大将モ流石至剛(シハァウ)

ノ弓取・

ノ子ナレ

宣ケルハ、

米 津 藤 藏 • 本 橋 金 五郎 天野 甚右 衛 菛 尉 • 鳥 居

八

今

八

定テ

切

腹

二及ンカ、

去ニオ

イテ

八

兼

テ

伊賀守、此人々ヲ先トシテ五十三騎馬ヨリヒタ

計策ノ旨、其詮ナシトテ侍ニ申付、本城ノ矢

/ \ ト下立テ鎗ヲ取懸ルヲ見テ、敵横鎗 | 突

倉 : 向テ大音声ヲ上テヨハワリケルハ、三郎 (☞メ゙ワ))

五郎殿御命二於テ八相違無」之侯:	
、尾州ュ申達	
城落居ト見エタリトテシハシ御馬ヲ立給へ	

人質代二可被成トノ 御 事二侯、 先二ノ丸二落 中 間 人立文持 テ 馳 来、、 御 覧 ス レ 八 平 手

中

八

サ セ

給 ^ **|** 申 ケ バ 城 J 内二八是ヲ聞 生捕二 務 太 輔 林 佐 渡守 方ヱ松井 • 朝 比 奈 所 \exists リノ

セ ラ レテハ 尸 ノ上ノ恥辱タルヘシトテ詰ノ矢 書 札 也、 其 紙 面 天 今日三州安祥

倉二上リ給、 角テ安祥 ノ城 駿 州 ヨリ 取 詰 ラ Ĵレ \ 付、 \equiv 郎 五 郎 殿 既二可有切腹(切腹角ルベキ) 処二、 **先**党 留 置 申

由 信 長 聞 召 く 早 々 後 攻 有 ^ + | テ 馬 廻 計 進 侯 然 八 去 年 人 質 **|** シ テ 被 引 取 侯 徳

八 日 J 未 明 清 洲 J 城 ヲ 打 出 給 フ、 漸 鳴 殿 子息卜替合二可有之 カ、 為レ 其 筆 如如如 此 : 侯

ニ テ

Ń 海 表 然所二狼煙ノ上ルヲ見テ、イカニ各ハヤ安祥 ニテ 八 方 々 \exists IJ 馳 加 IJ 千 騎 計二成 ニケ 御 恐 合 々 謹 点座シ、 言 **|** ソ 十一月十日笠寺ニァ互ニ引替 書タリケ ル 則 信 長 披 見 有 申 テ

Ш

城

攻

落

申二

ケ ń 夫 ヨ IJ 竹 千 代 殿 御 帰 玉 **座**(マシマシ) 畄 祫 城 八 横 手 = 引 退 陣 J 備 入 替 テ 楯 ヲ

八

ツ

シ

テ

見

セ 給 フ、 御 普 代 相 伝 之衆 八 不 及申、 僧 俗 男 女 懸 IJ ケ ル ヲ 見 テ 敵 J 旗 色 シト^{さら}) = 成

至 迄 悦 事 同 + 五 日ニハ 勢 駿 ^ 処 畄 禬 衆 二 横 鎗 突

申 限 ナ シ、 諸 軍 シ 立 ラ レ 備 ヲ 立 直

之

御

前

ヱ

参

ケ

レ

Ń

今 度

思

図

J

コ

トク

合

府

エ

帰

陣

也、

爰二松

井

朝比奈

・※源

長老、

義

元

サ

ン

|

セ

シニ、

勝

鬨

ヲ

掲

テ

懸

IJ

ケ

レ

八

左

右

ナ

戦 ヲ ク 敵 ヲ 突 崩 シ、 J 城 戸 ヲ 押 破 IJ 侯 事 八 徧

1 ケ 各 無 レ 恙 帰 陣 不 レ 斜 1 悦 有 テ 其 上 軍 J =

畄 崎 衆 J 働 ニ テ 御 座 侯 其 外 御 旗 本

次 第 委 細二 被相尋(アイ尋ネラレ) 松 井 朝 比 奈 申 上 ケ ル 八

八

誰

Þ

ト ー

々二名字ヲサシテ申上ラレ

ケ

義

畄

崎

門

衆

家

老

面

々

身

命

ヲ

捨

テ

命

ヲ

惜

元 聞 召レ、 今 度忠功ア IJ シ人々ヲ召テ、 或 八 所

ス 戦 侯 間 荒 手 ヲ 替 ∃ **|** 下 知 申 = 依 テ 先 陣

領 或 八 加 恩 ヲ 宛 行 ル 中二モ弓気 田 七 郎 次 郎

八 御 感 状 ヲ 給 ル 也、 出 崎 門 家 老 つ衆エハ 今 度 無 新 +郎 内 藤 与三兵 衛 村 越 平三 郎 同 甚

五

兵

比 類 働 有 之 段 御 感 悦 J 旨 使 者 ヲ 以 テ 被 仰

衛・江原孫三郎・古橋宗内・榊原平七郎・原見

遣ケリ、誠賞罰正次第也

太郎兵衛・平岩新八郎・同善七郎・本橋金五

竹千代殿駿府在府事

郎・渡邉勘解由左衛門・同甚平次・天野又五郎

去程二竹千代殿岡崎二十日余リ逗留被」成

石 Ш 彦 次 郎 • 同 内 記 • 植 村 新 六 郎 其 外 雑 兵

天文十六年「未十一月廿二日、岡崎ヲ御立有(エ፷ロセザ)

百

余

人ニテ御

在

府

也

然

所

=

義

元

故

ナ

ク

畄

崎 普 代 J 領 知 ヲ 押 取 漸 御 扶 持 方 計 J 御

テ 駿 府 ヱ 御 越 少 将 J 宮 町 = 新 造 = 屋 形 ヲ

アテカイナレハ、万事御心ノマヽ不」成、其上日夜(タロ デン

立置マイラセケル、其比御供衆八平岩七之助・

叼

. 部

善

九郎

酒井与四

郎

高

力与左衛門

叼

部

ノ働 二岡崎衆イツモ先陳ナレハ、普代ノ衆モ手

負討死多シ、
角テ残スクナー
アニ成ルナラハ往々ハ
関口刑部太輔
. 成給フナ

竹千代殿御身ノ上如何有ヘキカトアヤフマヌン

御軍初事

者モ無リケリ、然トモ御幼稚ノ主君ヲ引具

程二元康十五歳ノ御時軍始有へ

+

|

テ

去

シテ牢人可 \申 '' 八不及トテ各悲歎ノ泪セキ

弘治二年丙辰二月上旬二駿府

ヲ

打

 $\overline{\underline{\lambda}}$

給

テ

畄

アヱス、角テ物ウキ年月ヲ明ヌ昏ヌトスキヌレ

崎二城着アリ、御一門中普代ノ面々悦申事

Ń

限ナシ、本多豊後守・石川伯耆守申サレケル

正月二日、御元服有テ次郎三郎*元康ト奉

八

御

軍

始

ず事

ナレハ今度ハー入粉骨ヲツクス

ヘシ、先御備ノ次第評定シ、以上六段二定ケル

申、其外家老ノ面々ニ至迄授領・官 余 コレ有也

翌年乙卯二月十三日、

祝詞有テ今川殿御

門

去程ニ同十二日ノ未明ニ岡崎ノ城ヲ押出シ

シサツテ備ヲ立跡ヲキツト見返ハ、寺部・衣野(జッテ)	ツ戦ケル、中ニモ津田兵庫助・神部甚平ト名乗
掲ラレ侯ヘトテ諸勢ヲ皆引マトイ十町	給ケル、広瀬城ニモ敵待請爰ヲ専途ト追ツ返
各手柄ノ程勇々敷コソ見ヱラレ侯へ最早(ゴミック)	由信長被及聞召、所々ノ城々ニ加勢ヲ入置
追詰ケリ、松平玄蕃允・同勘解由下知シケルハ	城へ働給フ内々元康軍初トテ岡崎ニコレ有
敵引色ニ見ヘケル間、勝鬨ヲツクリ懸城際	放火シ岡崎¤帰陣被成ナリ、同十七日、広瀬
ケルカ郎等ニ突落サレテ討レニケリ、去程ニ	外曲輪迄追懸悉ク焼立ケル、其外在々所々ニ
津田カ首ヲソ取リタリケル、神部ハ江原ト切合	テシハシ戦ケルカ終ニ追立ラレ城内指テ引テ入
七郎右衛門尉渡合上ヲ下ヘト切合ケルカ、終ニ	梅坪城 Ξ 押寄ケル、城中ヨリモ城戸ヲ開懸出

真先二進、

旗本サシテ切テ懸ル、味方二八大久保

・丹下・中嶋ノ城々ヨリ楯籠軍兵一度ニ打テ

共	
爰 カシコニ	(ПП)
扣	(ヒカエ)
タリ、	
石川安芸守申ケルハ、御	
御軍	
_	
元康駿府ヨリ岡崎『於被致帰城八人質ノ儀	(帰城致サルルニ於テ)

始 = 両

日 ナ 力 ラ 利 運 ヲ 1 ケ 給 事 目 出 度 家 老 J 者

 \exists IJ 可企 令在府 事

λ セ 給 フ、 角 テ 廿日 余 ij 御 逗 留 有 テ三 月 中

御

事

ナ

レ

八

早

々

御

帰

城

可

レ

然

|

テ

出

崎

ヱ

出

崎

Щ

中

蔵

納

明

知行分如前々可被返置(前々)如方返シ置カルベキ)

従験府で 岡 崎ュ在番 「 ノ 儀、 全 (動用無ク) 用 ·侯 間 可

ル 府 八 御 帰 今 座 度 被 元 成 康 ケ 軍 IJ 始 乂 義 有 レ之処に 元 御 対 面 両 有 \Box 取事、 野 甚 右 右以条数石川安芸守・ 衛 門駿 府 ヱ 相 詰 樣 々 訴 本多豊後 韶談 申 侯 ヱ 守 **|** Ŧ 天

テ

仰

ケ

旬

=

駿

ナ

力

被得勝利之条(勝利ヲ得ラルルノ条)

感

悦

不

斜

`

1

テ

御

手

義元承引ナク、 近年尾州表ュ発向スヘシ、 其時

分境目等敵 ノ持分 ノ城々隨、 其上ヲ以テ祖

ス

力

ラ

打

蚫ຶ

ヲ

取

テ

被

レ

進

ケ

ル

出

崎

門

并

家

老

衆

義

元

ェ

韶 飯

申

事

清 康 知 行之通 八不可有相違 **|** 宣 一フ間、 両三

引

人	
Ĵ	
衆	
Ŧ	
重	
テ	
可	
可申上様 ナ	
끞	-
砞	1
ナ	
ク	
シ	
テ	
岡	
崎	
고	
帰	
IJ	

・ 三年丁巳四月二日、駿府ヲ御立アツテ(エ፷ユキサ)

畄

崎

ケリ

大高城兵粮入事

タ

メニ大高ニ指向、

鷲津

•

丸 根

ノ両

]城二信|

長ヨ

城ニ着陣シ給フ、敵大高ュ兵粮入事ヲ防カン

尾張国知多郡鳴海ノ城ニハ山口左馬助父子

リ宗徒ノ兵八百余騎入置レケリ、鷲津・丸に(メネト)

根

信長ヨリ入置レケルカ、逆意ヲフクミ大高・沓懸

螺 鐘 鳴 事 有 八 寺 部 • 梅 坪 • 広 瀬 三ツ J 城 日

=

両 城 Ŧ 同 心 シ テ 駿 河 고 降 人二成 IJ タ IJ ケ ル

リ懸合へシ、丹下・中嶋ノ両城ヨリ後攻スヘシ

然 二 義 元、 美 濃 • 尾 張 고 発 向 有 ^ + タ 人 大 高

1

内

々

評儀

有

シシショ

聞

^

ケ

レ

八

大高

ノ 城

ェ兵

粮入レンコト難」成トソ見ヱニケリ、然ニ元康仰

城二兵粮ヲ可入置ト有テ、元康#東三河

衆

加

勢

シ

テ

大

高

J

城

警

古

有

^

+

|

テ

弘

治

ラレケルハ、如何ニ面々、敵方ノ様体ヲ聞ニ直ニ

大高 Ξ 兵粮入シントセハ定テ鷲津・丸根ノ両	
ケレハ楯籠軍兵防戦ケレ共二・三ノ丸迄焼立	

城ヨリ敵馳出テサヘキリ留ントスヘシ、ソレニ取合 ケ レ 八 案 *丿* コトク其煙ヲ 見テ鷲津 • 丸 根 J

両

フ儀ナラハ寺部・梅坪・ 丹下・中嶋ノ城々ヨリ敵 城 ヨリ 後攻セント馳来リケル、 其

(難儀タルベシ) 未学 陳二大高 雖沒 為豐 ^ 八

坪 馳 加 両 テ 城 必 ヱ 押 寄 放 火 セ 某 先 八 定 思 テ 案ス ル (二寺) 部 梅 思ノマ、二兵粮ヲ入タリケリ、

鷲 津 • 丸 根 J 城 若 (ジャクネン) 御 計 略 J 深 + 朩 **|** 老臣 舌 ヲ 振 ケ 'n ソ

々ヨリ敵後攻セント馳来ラントヲホヘタリ、 其隙二 レ \exists IJ 岡 崎 ^ λ 、セ給 Ļ 翌 日 八

駿

河ヱ

帰

ラセ給

安 々 | 足 軽 ヲ 添 兵粮 ヲ入サセヨト下知 シ 給 匕 ヒケリ

義 元 尾 張 発 向 事

押 破 IJ 放 火 シ テ ソ \exists IJ 梅 坪 J 城 ヹ 被取懸り (取懸カラレ)

同

+

日

J

未

明

寺

部

J

城

고

押

寄

J

城

戸

ヲ

Ш 義 元、 天下ュ 切 テ · 登 リ 国 1家之邪 路 ヲ 退 ン

今

元康

御

左馬助・朝比奈兵衛・浅井小四郎義元ヨリ入	坂・今切二手二分レテ押タリケル、大将八本坂越ト
門守・飯尾豊前守、笠寺ニバ葛山播磨守・三浦	諸勢ヲソロヱ大将八浜松城ニ着給フ、ソレヨリ本
山口左馬助・岡部五郎兵衛、大高城二八鵜殿長	越マムシ 坂『野陳ヲ懸ラレタリ、十三日池田原ニテ
陳所備ノ次第ヲ定給フ、下地ヨリ鳴海ノ城ニハ	懸川二着陳(巫)八、先陣八見坂国府・鎌田力原ヲ打(マシマセ)
限、同十五日、義元岡崎二城着有リ、三河勢ヲ改	兼田河・佐夜中山・新坂二陳ヲ取、翌日十一日本陣(粛≡)
人有テ先陳ヲ奉ハラセ給事各勇悦申事無	藤枝二着陣有リ、先陣八嶋田・大井川ヲ打越
ナレハ岡崎普代ノ面々御迎ニ罷、イツシカ御成	年庚申五月十日、大将義元駿府ヲ打立給ヒ
藤河指テ段々ニ陳ヲ張、元康ハ今度ノ先陳	着到ニテ遠州池田ノ原ニテ勢揃ト定、永禄三
ソ聞ヘケル、十四日二吉田二着陳アリ、先陳八赤坂	トテ駿河・遠江・三河三ヶ国ノ軍勢*二万余騎ノ

置ル、、	
去程二同十七日、	
本陳八池鯉鮒表ュ押	
旗本ハルカニ扣ヱサセ給テ委細ニ	
見分有へ	

寄ヲ ケ ハサマニ陳ヲ取寄ラル、 是ヨリ知多郡ヱ 事 ナ レ 八 花 ヤ 力 ナ ル 軍 シテ各 1可姓名顕(姓名) **|**

申

+

働、 在 々所々ノ民屋放火シ作毛ヲナキ捨ラル ケ ル 元 康、 石川日向守ヲ召テ今度

ヘシ、 翌朝鷲津・丸根ノ両城ヲ先陳ナレ 八 元康 ヲ定ラル、 先 軍勢ヲ三手ニ分テ、 一手八 ノ備 没所

西三 河 衆 ヲ 引卒 攻ラルヘキニソ定リケル、 石 字 懸 ヘシ、 扨 手 八 搦 手 ^ 乗

ケ j 八 今 度 ノ合戦二大将ヲ見 放 シ、 残 ル勢 八 旗 本 ヲ可レ守 **|** 委細二下知 シ 給フ

Ш

伯

耆

守

申

シ、 敵方『懸入高名スヘカラス、互二手ト手ヲ取 酒 井 左 衛 門 尉 • 石 Ш 伯 耆 守 左 右 ヲ 見 廻 シ

組 大将ヲ真中:成テー同ニ懸ヘシ、マハラ懸スヘ 人数ノ賦ヲ申付ル、 先一文字二懸 ル 衆 八

カラス、 弓手八駿河衆、 妻手八遠江衆、 後八義元 紀伊守・松平七郎・松平弥左衛門・松平主殿助・

同

松平

廻

脇

鑓

=

懸

^

文

でいた。 は新十郎・同左吉・赤 同次右衛門・水野藤七郎・大久保七郎右衛門が之丞・同新左衛門・天 斉藤彦一郎・水野藤七郎・大久保七郎右衛門・活場ののので、 ・岩城忠四郎・平岩五左 井切之助・足立左馬助・蜂屋半之丞・大橋傳七、扨の一門ででででででである。 一郎・おりと、大久保七郎右衛門が、大谷郎・田郎・神田・田の田・大久保七郎右衛門・西郎・田彦(下・地)・一島田郎・田彦のでは、大久保七郎右衛門・四郎・田彦(下・地)・一島田ののでは、大久保七郎右衛門・大切・田彦(下・島田)・一島田ののでは、大久保七郎右衛門・大田)・一島田)・一島田)・一島田)・一島田)・一島田)・一島田)・一島田)・一島
同金助・酒井将 平太夫・筧圖書・同牛之助・同助太夫・山本才蔵

作左衛門・植村出羽守・高力与左衛門・天野三	衛門・斎藤喜一郎・青山喜太夫・久米新四郎・八
楽助・石川伯耆守・同日向守・本多豊後守・同	傳左衛門・加藤又蔵・足立孫四郎・石川善五左
千余騎、扨御旗本守衆酒井左衛門尉・同雅	傳蔵・河切孫四郎・本多喜臧・天野清兵衛・同
三浦平三郎・近藤新九郎・黒柳金七郎此勢一	鴨傳中・山田清七郎・山本四平・加藤小左衛門・同
孫十郎・木多三九郎・浅見金七郎・同主殿助・	六左衛門・赤根弥六郎・同弥太郎・同藤三郎・鴛
衛門八・同又十郎・内藤与八郎・江原孫助・内藤	衛・同左太郎・榊原弥平兵衛・薮田茂左衛門・伊藤
左衛門・佐橋監之助・大橋左馬介・石川大八郎・同右	丞・中根十三郎・村越平三郎・同久兵衛・同甚五兵
門・土屋甚介・同甚七郎・内藤甚五左衛門・同四郎	守・酒井下総守・小栗助兵衛・同仁右衛門・加藤日祢

國弥五郎・酒井喜八郎・安藤九助・筒井与左衛

郎兵衛・

阿部善九郎・平岩七之助・同善十郎・同

シ、未取詰間ニ各八思ヒノ\ニ落行、全高名極(ママタᡑṇテサル)	七郎・同新九郎・成瀬新兵衛・酒井又臧・同造酒
事八叶間敷候、 乍 去 其一足モ可」退所存コレナ	久保四右衛門・本多甚次郎・石川七良左衛門・同新
軍ヲ以テ此城ヲ取卷レ候上八千一モ運ヲ開	居鶴之助・同才五郎・林藤五郎・矢田作十郎・大
久間大學軍勢ニ向テ申ケルハ、今度義元大	藤藏・山田平五郎・赤根甚五郎・天野宗兵衛・鳥
急飛脚ヲ以テ此由信長▽注進申上ケリ、佐	鳥居又五郎・加藤九郎兵衛・同十郎三郎・中根
二明十九日、丸根城ヲ 可 被 攻 ト有ル内通ヲ聞	喜八郎・浅岡新臧・植村権内・鵜殿七郎三郎・
ヲ大将トシテ宗徒ノ兵八百余騎籠置レケル、既	九郎・江原孫三郎・大竹源三郎・朝岡久五郎・斎藤
千余騎、去程二丸根城二八信長ヨリ佐久間大學	高木九助・新見太郎兵衛・今村彦兵衛・松平弥
丞・石川又十郎・佐野与五郎・内藤孫十郎都合一	新八郎・内藤与三兵衛・同三左衛門・植村庄右衛門・

ラレ候へ、
ト有ケレハ武者頭二服部玄蕃允・
渡
人ノ者トモ

部 i 大藏 太田右近・早川大膳 • 兼田 隠 岐守此五 同シテ打ち出可遂一戦二ソ被」定ケル、(一戦)遂グベキ) 角テ元康、

+

ヲ

人 八 数 度 ノ覚ヲ取タル 者共ナリ、 其 中二服部 九日ノ未明二大高陳所ヲ打立 給、 三千余騎

玄 蕃允進出テ申ケル 八 今此時二至テ誰 力立 三手二分ケ丸 , 根城 ヹ 押 寄 給、 敵 モ

ヤ、 所詮 取詰ラレテ 闇々ト討果サレ ヲ 乗 出 轡 ヲ ソロ <u>へ</u> 面 モフラス馳 来、 物 合五 町

退

可申シベケン)

 \exists IJ 八 城 外 指 テ 討 テ 出 $\overline{+}$ 死 生 J 合 戦 ヲ 致 計二見ヘタル時二元康、 石川 ・天野ヲ召テ仰ケル

八 敵 陳 ヲ 打 破 IJ 信 長 卿 J 後 Ϋ́ 敵 八 城 ガラカ取 ^ + · 処二還 テ寄来 何(ʔŋサマ) 有

シ、

自

然

命

生

ナ

攻 J トアタリモ不惶諌ケル、 勢 温馳 加 ij 忠 戦 ヲ 致 コ ゾ 大将佐久間ヲ初残四 大勇ト Ė 申 ケ タ 無 ń J 戦 懸 ル ヲ -奴原ニ寄合ソ、ロニ味方討 ケ、 残 ル 勢 八可退散ス行 | セテ叶

八

ル

カ

二 城

マ
マシ、
唯矢軍計ニァアイシラヒ、
イシラヒ、
サノミ敵ニカマ
カマ
ı
レマツ
レマツサキニ
レマツサキニ進軍兵三
マツサキニ進軍

テ 城ヲ乗捕レ、 卜仰 ゲル、 石川伯耆守・天野三 サレテ残スクナニ成テ引色ニ見ヱケル処ニ、

旗 本

(**ヲ**噇ト 揚 討 二

郎 兵 衛 承 テ両手ェ使番 「 ノ 衆 ヲ廻シケ ル 角テ 勢 度二鬨 追 懸 指 詰 + 町 計 追

敵 面 J 兵 懸 来 トモ馬上鑓ヲツトリ甲ノシコロヲ傾 **|** 互 三 討 所∃ 討タリケリ、 敵ハ兼テ期タル事ナレハ丸根城ヲ余

ケ 先 ル 陳 敵 取 味 組 方 J 鬨 J ツ 声 討 矢 レ Щ ツ J 火 音 花 八 百 ヲ 押 入テ御旗ヲ立タリケリ、 二見テ脇 道 指 , テ 落 テ行、 義元ハヲケハサマ 角 テ · 諸 勢 丸 根 ノ陳 城

モヲヒタヽシ、 去程二元 康 自 所 ヲ 未 明二打立給ヒケル グリア (処二丸) 根 J 城 落 居 J 由

4 ヲ 取 テ 旗 本 . 勢 Ŧ ツニ成テ懸 / \ ト ヲ 被及聞召 不 斜 悦 給給 の (関連の対象が上) (税ビ給フコト斜メナラズ) ` 御 使 者 **及両三度** (兩三度三及ビ) ケ IJ

旗本ノ弓鉄炮五十挺 同二放懸ラ 遠 江 衆 · 三 河

知

ラ給

へ八、

身

千

J

雷

J

鳴

落

ヨリ

散

シ

テ

戦

レハ、	
各畏テ爰ヲ専余ト先ヲ争攻懸ル、	(先途)
扨鷲	
二備居タル処二、	
十九日ノヒノ刻	
- 刻ヨリ寄手六千	

津 城 二八信 長ヨリ 飯 尾近江守・ 同 隠 岐 守 織 田 余 騎 鬨 声 ヲ 揚、 矢一 筋 射違 ル程コソ有ケレ、

敵

玄 蕃 允 侍 大将 **|** シテ宗徒ノ軍 兵 四 百 余 騎 \Box 味 方一ツニ成テ叫喚テ戦ケル、 去トモ寄手大勢

乂 ゙ヺ 力 八先陳引八二陳ヲメイテ懸入ル、

レ 趣 ケ 八 ル 今 度 爰二丸根城 ノ 合 戦ニ 主佐久間大學 籠 城 シ テ 攻 朩 方 \exists ナ 出シ追出セハ懸入、 レ 時移迄戦ケル、 城 懸入 中 八 ハレハ追 元来小

 \exists IJ 八 明 朝 有 無 J **遂一戦** (一戦ヲ遂ゲ) 城 外 . 고 討 テ 勢 ナレ 八 終記 打負、 搦手ヨリ落行、 寄手 〕 ノ 軍 兵

J 勢二可 が加 | 存 ル ナ 替 テ櫓二火ヲ懸 タ ij ケ IJ 大 将 八 ル 力 煙 ヲ 御

如 何 有 ^ + **|** 申 来 = 付 テ、 鷲 津 三人ノ 大 覧 シ テ 早 · 鷲 津 J 城 Ŧ 落 居 | 見 ヱ タ IJ 日 J

テ 可致一戦覚語(一戦致スベキ覚悟) 内 両 城 トモニ責 落 \Box **|** 物 初 \exists シ -御 感 悦 不

将

Ŧ

佐

久

間

力

行

尤

ナ

IJ

|

各

出

テ

方ヲ打

破

IJ

後

攻

IJ

ホ

サ

レ

ン

IJ

申

来

海老丞・柘植玄蕃允、善照寺ノ城二八佐久間右衛	扨又大高城八敵ノ志ス地ナリトイヘトモ年々兵
豫参降人ト成へシ、扨丹下城ニ水野帯刀・山口	付タル器量ナリト仰有テ御褒美不レ斜
ル、重テ宣ケルハ、大形此響ヲ聞テ知田郡ハ	是二ハマサラシ、元康武者賦軍行唯大将二生
番可 > 有ノ由朝比奈兵衛尉ヲ以テ仰ラレケ	者ニモ増タル風情ナリ、晴信・輝虎ナトノ軍法
大切ノ地也、今日ヨリ元康八大高ノ城ニ在	始テノ軍二自身 囲 ヲ取テ攻給フ事老剛ノ
ナレハ不依思モ定テ大高ュ責懸ルヘシ、彼是	両城タヤスク責落ス、中ニモ元康ハ謂若年ト
ルニ信長憤ヲ含働来ルトモ、義元旗本ェハ大軍	致伺公処ニ義元宣ヒケルハ、今度各依忠節ニ(゚゚(゚゚(฿฿)ス゚)
ルニ今日両城ノ取手ヲ責亡シ数輩ノ軍兵討取	テ大将八御陳所『入給、 良 有テ諸士旗本衆
粮ヲ籠置、軍勢堅ク守ニ依テ攻ヨルコト不叶、然	斜、 具 二首トモ実検有ヘシ、能々注文致セト被 いののである。

門・同右京進、
中嶋城二八梶川平右衛門信長ヨ
ノ武将ヲ蒙リー統ノ世トナスヘキコト掌「

リ籠置レケル、 此者トモハー定可退散少モタメロウ コトシ、 ト仰ケレハ、 座中伺公ノ面々悦イサメル気

程

ナラハ旗本勢ヲ以テ攻ホスヘシ、ソレヨリ熱田 シ + 面々顕テソ見エタリ ケル、 **継源** 長老進出

千

余

騎

J

小

勢

=

テ

我

|

戦

事

八

表

ジェ押・

出ナラハ定テ織田上総介馳向フヘシ、

 \equiv

唯

今 ノ

御

人 数

四

万余騎

ト 世

間二

取

沙汰

申

侯

以螳螂斧(蟷螂ノ斧ヲ以テ) 可 頓力 テ 百 万騎 J 御 大 将 **|** 申 ス ^ + 八 時 刻 有 マ

為如向龍車 追 打 = シ テ 則 事 = 清 洲 J 城 ヲ

シキ Ė ソ申サレケル、 義元 弥機 嫌 能 座 テ 各 両

可乗捕 (乗捕ルベシ) 美 濃 国 三八 敵 ナシ、 江 州 浅 井 備 前 守 加

日 八 畫 夜 辛 · 労 有 シシ 力 心 易 休 息 侯 **|** 仰 有 ケ

勢 有 + **|** J 兼 約 也、 扨 佐 々 木 力 楯

寺

•

箕

作

ノ両城ヲ攻落、

其

ヨリ

都ェ上リ 籠 · 天 下 観 音 習 レ ノ衆 Ń 国衆八則面々ノ陳屋ュ帰ラレケル、 八居残テー 酒一 瓶ニテ祝ヘシトテ酒 家老近 盛

ハサマニ陣ヲ張、明十九日丸根・鷲津ノ両城ヲ責	仰ケルハ、今朝十八日、義元知田郡『出張シテヲケ	成二ケリ、去程二信長卿、近習外様ノ人々ヲ召テ
細ヲ案スルニ、三州ノ境目所々ノ城郭ニ軍兵ヲ	重テ宣ケルハ、各意見雖レ有、其謂ツクヾク事ノ子	軍八後ノ勝コソ肝要ニヶ侯ト申ケレハ、信長卿
	細ヲ案スルニ、三州ノ境目所々ノ城	吽ヲ張、明十九日丸根・鷲津ノ両城ヲ責 細ヲ案スルニ、三州ノ境目氏今朝十八日、義元知田郡≧出張シテヲケ 重テ宣ケルハ、各意見雖△有、

ホスヘキノ由佐久間大學・飯尾近江守方ヨリ飛	籠置、目丿前ニーー敵ニ討果サレン事ヲ知ナカラヨ
脚至 来異、速二馳向テ勝負ヲトクヘシト宣ケレハ	ハ/\ト籠城ヲセン事信長弓矢ヲ捕テ末代迄。
林佐渡守申ケルハ、既ニ義元八四万余騎、味方纔	ノ悪名也、死ヲ軽シテ名ヲ重ンスルコソ勇士ノ

『三千余騎也、懸合ノ合戦『勝利失ナハレン事	林佐渡守申ケルハ、既ニ義元八四万余騎、味方纔
本意トスル処ナレ、所詮於信長明朝打出、有無(偏偏)まずよ()	ノ悪名也、死ヲ軽シテ名ヲ重ンスルコソ勇士ノ

疑有マシク候、
先爰ヲ退、
当国ノ切所へ引ウケ
ノ可遂一戦志ノ輩其功ヲハケマシ侯へ、(戦ヲ遽クヾキ)
ト 仰 ラ

御

立給、
先熱田表『ト馬ヲ早メ給処』
処
旗谷口ニテハ
当社大明神ノ瑞相アリ、
進メヤ者共、
ト下知シ給打

方 々 IJ 馳 加 テ 千 余 騎二成二ケ ij 則当 社 立給フ、 笠寺ニテ勢ヲ被レ揃、 況ヤ 数度ノ高名ヲ

大 明 神 ヱ 参 詣 有 テ 今 度 J 軍 偏 不 預 霊 神 顕 騎当千ノ兵共ナレハナシカハ勇サラン、

擁 護 豈 以 無 勢 得 多 勢 勝 遥 神 慮 J 輝 威 光 佐 々隼 人・ 千秋四 郎 ・岩室 長門守内

得 勝 ヲ 凝 メソ 誠 神 納 心 掛ケルニヤ (方ノ旗) 頭 ノ見エルトヒト

戦

下

祈

誓

座

シケ

ル

Ŧ

· 味

受 ヤ シ 給 匕 ケ ン 内 ·神ニテ 物 具 音 幽 聞 ^ ケ ル フラ ス敵陣ェ 乗 Ý 駿 河勢二石川六佐 衛 菛 · ト 굸

卿 感 歎 肝ニメイシ立 願 成 就 シ ヌ **|** 頼 母 敷 シ 者 其 日 J 物 見 ノ役ニァ味 方 二 十 应 五 町 先 立

信

長

大宮司二仰テー 紙ノ願 ラ 献 ラル テ扣ケルカ待請タリト云儘二散々ニ 戦ケル、 然トモ

士卒二向テ宣イケルハ、 今日ノ合戦ニー定可」勝 多勢ニ 無勢叶ハネハ終ニ三人共ニ討レニケリ、 六

シク面

々

先

懸

ヲ

中三モ

左衛門尉討捕シ敵ノ
, 首三ツ義元卿見参
テ東西更二見分カタシ、
寄ル味方サへ敵陣に

近

Ŧ

、タリ ケ 八 御 感 悦 不 浅 御 褒美 有 テ 芝居 ク 成シヲモ知サル程ナレハ、 敵 ノ知ラサリ ケ ĺ٧

酒 盛 ニ成ニケリ、 去程二信 長 卿、 敵 八 猛 勢 味 理 ナ 'n 信長 (態=ワザト) 敵 陣 近 成 マ · テ 旗

ノ 手

ヲモ

方八 纔 ノ 事 ナ レ 八只尋常 ノ如ク二軍 Ė セ 八勝 事 不」下時声 人不レ学. ケ ij 是 八 敵 ヲ 出 抜 テ 手 攻

ヲ 得 カタ シ、 後 J ·山二到 テ 推 廻、 旗 ヲ 巻 忍 寄 IJ

勝 負 ヲ 為 レ 決 J 謀 ナ 'n 如 レ 案 駿 河 勢 唯 今 敵

初

1

シ

テ

油

断

元 力 旗 本 指 テ 切 テ λ レ **|** 下 知 シ 給 匕 ケ ル 可 ッ寄 トハ 、不思寄ラズ) ケレ Ϋ́ 大 将 ヲ

出 羽 守 進 出 御 行 尤 可 レ 然 覚 侯 大 将 義 シ テコソ 坐シケ ル 唯 鬼ニモ 角 ニモ 運 命 J 盡 ヌ

築

田

義

元 ヲ 討 捕 申 ^ + 事 案 J 内 = 侯 タ \ 急 カ セ ル 程 コソ 浅(アサマシ) 猿(シ) ケレ、 去程二信 長、 三千 余 騎 ヲ

給 ^ **|** ソ 進 ケル、 折 シ Ŧ 五 月 雨 シ + · リニ降· 来 手二合同 時 二 ヲ **|** ッ **|** 作ラル、 義 元 時贸

J

声ニ驚テ周章
騒給フ所ュ織田酒造
丞・林卿
が、敵ハ小勢ソ、
キタナキ者同士討カナ、
撰 打

佐 渡 守 森三左衛門尉 同 新 助 中条小 市 郎 = 討 取 レ **|** テ 帷 幕 J 中ニテ下 知

シ

給

匕

ケ

ル

処

遠 Щ 河 内 守 同 甚 太 郎 築 田 出羽守 ナ **|** 굸

服 部 小 平 太 ト名乗テ 馳 合タリ、 義 元 太刀

ヱ

騎 当 千 J 兵 共 手 マ ニ 鑓 **ラッツ** 取 取 喚 ПЦ テ 四

抜 持テ渡合、 散々二戦給ヒケル、 小平太膝 ノ皿 ヲ

角 八 方 \exists IJ 縦 横 無 盡二懸立ケ ル 義 元 大 勢 ナ

ワ

ラ

レ

少

匕

ル

ンテ

見

エ

ケ

ル

処 二

森

新

助

1

名

IJ

1

굸

^

|

Ŧ

俄

騒

<u>\forall</u>

タ

ル

事

ナ

レ

八

敵

|

馳

合

乗 助 来 テ 其 マ ` 義 元 ヲ 突 伏 首 ヲ 捕 テ ソ 出 タ

戦 トス ル 者 八 少、 或 八 . 鑓 一本二二人三人 取 付 我

ケ ル 抑 知 義 軽 命 者 雖 レ 多 事 J 急 ナ ル 臨

IJ

 \exists \exists **|** 奪 合 所 Ŧ 有 'n 或 八 味 方 ヲ 敵 **|**

テ 大将ノ 命 替 トス ル 兵 Ŧ 無 IJ ケ ル 運 J 程

見 テ 引 組 指 違 Ŧ J Ŧ 多 力 IJ ケ 'n 角 テ 義 元

墓ナケレ、信長 ノ兵、 大将義 元 八討 捕 タ ĺ٧ ソト

声々呼リケレハ、	
弥十方ヲ失、	
シトロニ成テ落行	
防戦トイヘトモ多勢	
二無勢叶ワ子 八城ヲ明海	\ Q

渡

ケ ĺ٧ 力 或八主ヲ討セ 何 クマカ可」退トテ引返、 討 降 人 成 テソ出ニケリ、 信長卿 宣 ケ ル 八 大将

死 ス ル 、モ有、 或八深田二馬ヲ乗入為方ナク自 害 元 討 死 ヲ 聞 及 ナ 八 城 ヲ 明 可致退散 処ニ 信

ス ル 者モ多カリケリ、 去レ 八半時計 ノ戦二討 捕 力 馬 ヲ引請遂一戦 城 ヲ 渡 事、 尤勇士

ル 敵 首二千五百余トソ被」注ケル、 生捕 ノ中ニ 1 テ 命 ヲ 助 ラ ル 重 テ 五 郎 兵 衛 願 八 義 元 J

林 叼 弥 **|** テ 義 元 J 同 朋 ア ij 此 者二首: 共 J 名 遺 骨 ヲ 申 請 度 J 旨 申 上 ル 信 長 卿 聞

林 冏 弥 ヲ 八 命 ヲ く ヤ サ シキ · 者 ノ志カナ、 ト不浅感思召 則

字

ヲ

被

尋

実

検

有

テ

其

後

ケ į \exists IJ J 首 ラ 畄 ケ

J 助 古卿(放鄉) 城 ヹ ヹ 押 送ラレ 寄 取 巻 レ ケ 'n 去程二信 城 主 長、 出 部 其 五 郎 兵 鳴 衛 海 義 程コソ有難ケレ、 元 部 五 郎 山口左馬助 兵 衛 ニソ 渡 • サ 同 九郎次郎モ ケ ル 情

召

ノ 道

ナ

IJ

長

義

早馬ニッ告来ニ付テ、五月廿日大高ノ城ヲ明帰	ヲモ被」明可」然旨申上ル、元康聞召、兼テ此城
大形退散ト見ヘタリ、其表早々可被引取由(マオヤয়ワウトン(サ)	侯ヤラン、駿河・遠江ノ勢共落散侯、今八早此城
遠江ノ軍勢引退ナリ、所々ニ楯籠軍兵モ	家老ノ面々急御前ュ参リ、義元生害誠ニッ
四郎左衛門方ヨリ義元討死シ給ニ依テ駿河	ノ寄勢トモ大将ヲ捨テチリ/\ニ落行ヲ見テ
ヲ聞届、其上ニテ可及是非ト宣ヒケル所ニ水野	大高ノ城ニハ元康籠居給ヒケル、然ルニ駿遠両国
ト嘲 哢 セラレンモ難」遁、後難ヨシヤ是ニテ実否	義元討死ヲ聞モアヱス城ヲ明退散シケル、爰ニ
ヲ明ナハ元康ワカケ故周章テ城ヲ落タリナン	ラレケル、其外池鯉鮒・笠寺・沓掛所々ノ城々モ
義元討死ノ儀、 未及分明 沙汰処ニ楚、忽ニ城	シカ近年立退、義元ニ仕シ、科ニヨリ則首ヲ刎
二楯籠事、信長ノ馬ヲ引請為一戦ナリ、然ニ	降人二成テ出タリケルカ、元来信長ノ家人也

陣被成、
岡崎大樹寺
二着給フ、
角テ岡崎城二
Л
ハー子息氏 實 トテモ長年至テ今武道嗜ハ

ク

義 元 近習ノ侍トモ在番 有 シカ、 大将: 討死 シ給 朝 ニハ京・堺ノ数奇者ヲ集、タニハ洛中ノ 遊女

 \vdash 聞、 散々二落行ケリ、 元康願所ノ幸ト ·則入替 白拍子逸歌兵庫ヲトリヲ好、 武勇ノ道八曽ヶ

給ケル、天文十六「未ノ年此城ヲ出サセ給、

今 年 以テ不案内ナリ、カヽル次テヲ以テ向後*氏實ト

+ 九 歳、 永禄三年庚申五月廿三日代(- 五六〇年) . 々相 伝 J 手 切 シテ東三河ヲ打

城二立

返ラセ給フ

事

偏二当国

[六所

ブ明

神

•

伊

賀

長 八 上方 筋 デュ 心指 治 治 ナ レ 八 東 玉 エ 働 出 ル コ **|** 有

八 幡 宮 J 御 誓 **|** 僧 俗 男 女 三 至 迄 悦 ヌ 者 八 無

間 敷、 先領内仕置 ノタメ奉行人ヲ定ヘシ、 ト 有

IJ ケリ、 元 康 公、 家老ノ面々ヲ召テ宣ヒケ

義 元 討 死 シ 給 フ 上 八 今 Ш 家 可滅亡スベキ) 瑞 相 也

ĺ 八 門三人ヲ仰付ラル、 高 力 与 左 衛 門 • 天 (野三 ソレヨリ 郎 兵 衛 御 • 領 植 分二制 村 庄 札ヲ 右 衛

随

ヱ

遠

州

ヱ

打

λ

^

シ、

信

信 長 領 分、 出 崎 境 目 城 合 戦 事

IJ 十八町ニテ戦有リ、 石川 新 九郎 大久保七郎

丹 家 🕆 城 鳴 海 城 沓 懸 城 広 瀬 城 衣 野 城

大 高

> 衛 門 高名村越平三郎 杉 浦 八十郎討

死、

豊

右

城 苅 谷 城 畄 野 城 寺 部 城

金

城

ヱ

早

ク

働

ニョリ

榊

原

弥

平

兵

衛

ヲ

ソ

ヨリ

梅

坪

城

長

沢

城

豊 金 金

城

榊

原

早

之

助

|

被

召

ナ

IJ

右 J 城 々 ヱ 畄 崎 \exists IJ 度 々 働 ア 'n 出 野 城 八

西三河 西 尾 城 落 居

事

松

平 主 殿 助 責 落 ス、 小 Ш 城 | 石 力 瀬 出 合テ 合

永禄四年 (一五六一年) J 春、 元 康 | 西三河 ヱ 発 向 ァ Ń 西 尾

戦 ァ 'n 其 **|** + 高 名 J 衆 高 木 九 助 鳥 居 兀 郎

祥 城 八 今 Ш ト ー 味ニテ吉 良 J 領 分 ナ 'n 西

東

左 衛 門 半屋半平・ 村越平三郎 矢田; 作 $\ddot{+}$ 郎

J 城 ヱ 八 中 嶋 \exists IJ 推 寄 、 夜 昼 J 境 Ŧ ナ ク 責

尾

置所ノ軍兵共ヲ旗本ឱ引取、上方ヲ心指打	ク攻ケル間、義虎ノー騎当千ト被ゝ頼ケル冨
ヲ入置無其謂カ所、全元康ト無事ニシ、城々ニ籠	テ三百余騎被入置ケル、サレハ夜昼透間モナ
負ヲ不決、就ゝ夫岡崎境目数ケ所ノ取手ニ大勢	騎、朝国ノ取手 = 八松平左近将監ヲ大将トシ
ヒケル、数年国ヲナラヘ地ヲ争トイヘトモ其勝	取手ニハ小笠原三九郎ヲ大将トシテ三百余
永禄四年ノ暮ニ信長卿、家老ノ面々ニ向テ宣(ヨネニキ)	本多豊後守ヲ大将トシテニ百余騎、糟塚ノ
信長与元康御和睦事	推寄、先方々二取手ヲ拵ヱケル、小牧ノ取手ニハ
聟ナリ、九月十三日藤波縄手合戦是ナリ	西尾城八酒井雅楽助ニ預ラレ、扨東祥ノ城ヱ
ヲ被明渡ケリ、此義虎ト申祖父清康ノ妹(ᠳケ渡ナレ)	ヲハ明渡、本城牛久保城ニ引籠ケリ、ソレヨリ
永半五郎討死シケレハ、叶ハシトヤ思ハレケン城	ケル間、城主牧野新次郎難叶ヤ思ヒケン、ソコ

テ上リ、	
元康八東国ヲ指テ可被切捕、	(切捕ラルベシ)
若 自	
難成存侯、	
偏信長任被申越旨御同心被成、	(申越サル旨ニ任セ)

力二叶 ヌ 事 ア ラ 八 <u>与</u> _= 加 勢 ヲ シテ (一味セラルベキ) 由 ヲ 心易遠江表へモ御手ツカ イ可レ然、 卜各評定

ヹ テ 信

長

決

御

竊 出 崎 内 通 ラ 以 心 底 ヲ 窺 見 Ę 1 有 ケ シ テ 其旨石川 :伯耆守方ヨリ返答申 . 送 ル

レ 八 瀧 川左近将監畏テ御請 ヲ申、 ヤ カテ笠寺 卿 悦給 事不り斜、 就レ其ニ 被引取りと |互丿境| 目城々二入置

左 衛 ヱ 門 ヲ 以 テ石 Ш 伯 耆 守 方 マ テ 申 通 ケ ル 夕 ル 軍 勢 共 = 不 レ 残 ケ 'n 近 辺 の = 民 百 姓

則

元

康

メラレ、

新

此 委 細 義 如何. 申 上シ 有 ヘキト評定有リ、 カ Ύ 家老 J 面 々ヲ召ア 各 申 上侯 Ÿ 八 者 等 多 Ŧ 力 年 IJ 毎 シニ、 作 旣 毛 ヲ 両 被 将 灲 御 捨 中 御 放 和 火 談 乱 妨 成 IJ 歎 諸 悲 人

J 信 長 **|** 御 取 合 J 内 八 他 国 ヱ 出 陳 J 叶 喜 悦 J 思 ヲ ナ セ 'n 翌 年 正 月 中 旬 八 元 康

隣

玉

カタク侯、 サ ル 程 ナラ 八国 郡広ク御手二入侯事 信 長 **|** 可有御対面(御対面有ルベシ) 1 テ 清 洲 ^ 御 出 馬 ナ IJ

衛門都合五百余騎ナリ、熱田表ェ為	門尉・天野三郎兵衛・高力与左衛門・植	御供ノ衆ニハ石川伯耆守・同日向守・酒
御 迎 ト	村庄右	井左衛
可 過 之 侯、此上八両旗ヲ以テ天下一統ノ世ト可レ(メートョウンミカッシミ)	申進侯所二早速御同心有」之事喜悦ノ至不	信長卿宣ケルハ、今度内意ヲ以テ無事ノ儀

林佐渡守・瀧川左近将監・菅屋九右衛門尉罷
成事子細有間敷侯、自今以後水魚ノ思ヒヲ

城宮入給シ刻、信長卿二ノ丸迄御迎トシテ御	付置レ、残所ナキ御馳走ナリ、元康清洲ノ	へ八信長ヨリ町中ニ宿々ヲ仰付ラレ侍五人ツヽ
指ヲ元康で進ラル、御盃モ納リ御物語ノ次テニュット	二及于時信長ヨリ長光ノ御太刀・吉光ノ御脇「帰い	取カワシ給ケリ、其後御酒宴初リ御盃数度

出 有

覚	
タル	
者	
ノ 侯	
`	
我 等	
	一村
為 相	11トシラ 望
雖為相伝望	4ト組モ)
源	
家	
秘	
守	
•	
菅屋久右	
久右	
/+	
別尉	
衛門 尉岡崎 z 神	
卫	
マ被遣、	
則正音寺	
<u>÷</u>	
Ξ	

宿

書 ナ レ 八 他 家 ^ 伝事 難 レ 成トテ伝授セス 侯 幸 仰 付 ラ レ御 馳 走ア Į, 其 主 両 人 御 腰 物 被し下

徳 Ш 殿 御 家 之 事 ナ レ 八 軍 書 被相伝可然(相ツタエラレ然ルベク) 侯 **|** 祝 着 仕 罷

帰

ナ

IJ

宣ヒケル、元康内々被及聞召事ナレハ不レ斜御

軍法御相伝事

祝 着 有 テ 御 睱 申 サ セ 給 L 帰 国 = 趣赴 カ セ 給 フ

去程二軍

法

八

伊

東

某

畄

崎

ヱ

参

着

仕

ル

則

御

前

『被」召、出生国ハイツクソト御尋有ル、伊東申上

信長卿モ為御送清洲ノ町末迄御出有リ

久 右 衛 門 八 熱 ケ ル 八 ` 豊 前 玉 宇 佐 郡 J 者 テ 御 座 侯 シ

力

田 表 迄 奉 レ 送 御 馳 走 申 广 ソ レ \exists IJ 清 洲 ヱ 帰 也

林

佐

渡

守

•

瀧

Ш

左

近

将

監

•

菅

屋

近 年 遁 世 J 身 **|** 罷 成 'n 播 州 船 越 Щ J 麓

同正月十七日二八信長卿ヨリ為御礼林佐渡

居住仕侯処ニ信長卿ヨリ 被 召 呼 時ニヨリ、旧冬(マロンサザミーヒ)

去テ七十代ノ帝後冷泉院御宇、安部貞任・宗任 ラレタリ、ソレ	奥守経基公、新羅国ヲ退治ノ刻始テ此書ヲ給ル レハ、伊東申上	天皇ノ王子貞純親王ノ御子鎮守府将軍陸 間ニ流布仕侯、	由来記□書被戊戴 分追トツテ申□、仁王五十六代清 私書加収、新古	帝王コレヲ調法トス、其ヨリ武家ニ伝ル次第一々 宮ニ納置レシニ、	弥 治 乱タル世二八武ヲ以テ静ムル習ナレハ、代々ノ ・ リ 源 氏 ノ 懐(マッロマッロ)	車ノ両輪ト古ヨリ申伝侯、治夕ル世ニハ文ヲ以テ 伝、頼義古伝書㎜(ォサマリ)	ト御尋有リケレハ、伊東申上ルハ、文武ハ 如 奥守義家傍二立[5. 化含化二氢医二丁二基二氢甲基二医二甲基二甲二甲基二甲二甲基甲甲基二甲甲基甲甲基甲甲基甲甲基甲甲基甲甲基甲甲基甲甲
レニヨリ無御冥加侯、古伝ニ云ク、軍法(御冥加無ク)	上ルハ、義経ノ軍法八大略魔法ヲ取添	義経ノ軍法八如何ト御尋有ケ	新古注ト号、ソレヨリ北條滅亡シテ世	1、北條時政九代後胤高時法師	書ト号シテ源家為末室八幡	伝書四十八冊ノ内ヨリ書抜三冊ニ作	立聞仕給ヒ、書写畢 ツ レヨリ武家ニ	発気が束掌 存束気 木化 フー 手田 降

大将二取立東祥城	尤可然存侯、ト申上ル、去テコソシ(土)(紫)(ダ)(45)(カ)(カ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)(ボ)
、僧等并近辺ノ百姓共司意シテ	上八義家ノ家ノ字ヲ可相続ト宣へハ、ヲ東畏(檉嗽ζζシ)
永禄六年癸亥ノ年、仲春ヨリ戸呂・針崎・野寺(「禹ケミルサン	家為末室書抜被▷置、源家ノ懐書ヲ相伝ノ
西三河逆徒事	首ヲ地□付罷在処□、重テ被↘仰ケルハ、今頼義・義
書写之者ナリ ^(えヲ書写スル者)	御代々ノ字迄書出サレ伊東ニ御尋アリ、暫
書三冊八天野甚右衛門二被仰付於御前二(@セマヤケットンᲚ前エヒタト)	名乗ヲ可ゝ改能々字性ヲ勘ヨト仰有テ、御先祖
郎ヲ奉行ニ被仰付書写サレケル、源家ノ懐	申上、ソレヨリ退出ス、翌日伊東ヲ召シ、元康ト云
成、四十八冊ノ軍書八能筆僧三人二阿部善九	主ト云、亡命国乱ノ法ヲ学ヲ闇主ト申伝侯由
二月二十四日ヨリ改元康、家康ト御名乗被	八国家ヲ静謐ニシ、為子孫栄耀法ヲ学ヲ明(チエチエササザ/魚)

女儿,月本一次青年中央 表示人员外	双原八所々二分散シテ峰起シケルの二、
) }	家康、家
	取詰ラレケル間、一
才 元 二 元 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	癸ノ者共身命ヲ助置ル

老 ノ面々ヲ召テ仰ケル Ϋ́ 近習ノ侍共一 向宗 Ì 於 テ 八 退 散 可 レ 仕 旨 達 テ 御 詫 言 申 上 ケ ル

間

分 八正 然 御 赦 免アリ、 大将 義 顕 八 城 ラ 明

万寺ト致一味ト云トモ不及是非儀ナリ、 渡、 荒 Ш ト 両

共 **急度**(*) 相改テ起請文ヲ書セヨ、 卜仰 ラレ ケ ル処 人 八 上方ェ牢 人被 で、申、 酒 井 将 監 Ŧ 城 ヲ 明

右 J 御 評定ヲ 聞 **|** 匕 <u>|</u> シク宗門 J 侍 八 百 余 駿 府 ^ 落 行 ケ 'n 宗 旨 計 ニテ 楯 籠

出 崎 ヲ 立 退 ケ Ŋ 櫻 井 J 松 平 監 物 • 上 野 J 不 儀 ヲ タニ於有御免 八 逆 心 ヲ 匕 ル 力 ヱ シ 忠 節

テ · 及難儀 (難儀!!及ど) ヲ 可 レ 仕 由 御 詫 言 申 上 侯 一 付 テ 不 レ 残 被召帰(四シ帰サル)

分有テ責ラレケ ĺ 或 八 放 扨、 東祥城二八天野三郎兵衛指置 $\overline{\mathcal{N}}$ 西 . 郡 デ 城 ニ

ケ

八

方

マニ御

手

酒

井

将

監

モ是二組シテ逆心ナリ、

角

騎

火 シ 作 毛 ヺ ナ + 捨 隙 透 間 Ŧ アラ セ ス 追 立 / 八 駿 府ヨリ 鵜殿長門守ヲ籠置レケルカ、 同二月

者

八

身

J

渡

廿六日ノ夜討二攻落 城主長門守ヲ討 捕、 ソレ 子 細 有 間 敷 | 申二付、 鵜 殿 長 門守 カ 子 両 人八

 \exists IJ 西 郡 領分家康 御 手 二入ナリ、 長門 守 力 駿 府 ヱ 送り、 三郎 殿 石]][伯 耆守才覚

子二人ハ生捕ニシテケリ、 然二家康駿州在府ノ砌 無」恙岡崎ノ城『入セ給フ

ヲ

以 テ

関 口 刑 部少輔息女北方二御座ケル時、 若君誕

家 康、 長沢ノ城 ヲ 可被攻 トテ永禄八年で丑三

長沢城落居事

御 時 駿 府二指 置 進 セラレ ケ Ĵ٧ ヺ、 氏 實 情 ナク

生アリ、

後 三

郎

殿ト申セシ御事ナリ、

漸ク三歳

月十三日一千余騎ニテ岡崎ヲ打立給ケルニ後 馳

可奉害 ーナト ソ ノ聞 エ有ケル折節、 石川 伯耆

兵 長沢ノ城二八此由聞及イヤノへ取巻レテハ悪カリ 方 馳 加 テ程ナク三千余 騎 成 給

々

ヨリ

-

フ

守 分別ヲ以 焼鵜 殿 長門守力子二人ト三郎 殿 **|**

可引引 引

替^{*}

カ

|

氏

實

家

老

J

中ヱ

申 送

リケ

レ

八

ナントテ未奇先二城ヲ明テ退散シケレハ、 則本多作

康仰ラレケルハ、今日ノ合戦八平場ナレハ馬ノ	駿府ヲ打立、佐和木ノ八幡ニ陳取テヲハシケリ
見エテ本野ヵ原ニ以上十二段ニ備ヘラレタリ、家	攻ラルヘキトテ其勢一万五千余騎ノ着到ニテ
攻懸ル、氏實旗本八岡崎ヨリ後攻ノ押ヱト	永禄十一年『辰二月七日、今川氏實、一宮ノ城ヲ(「虽六八年)
敵ノ備ヲ見セ給フニト、両手ニ分レテー手ハー宮ニ	一宮後攻事
近ク成シカ八暫御馬ヲ立ラレ物見ヲ出シテ	勢岡崎ュ帰陣ナリ
表ニァハ程ナク三千余騎ニ成ニケリ、角テ敵陣	騎籠置レ在々所々作毛ヲナキ捨放火有テ諸
ノ未明ニ岡崎ヲ馬廻計ニテ打立給フ処ニ、赤坂	門・大久保七郎右衛門其外宗徒ノ軍兵七百余
氏實二可対面事本望ノ至リナリトテ、同十日	リ牛久保ニ指向テー宮ニ取手ヲ拵、植村庄右衛
家康此由聞召サレ、願フ所ノ幸カナ今度鑓下ニテ	左衛門尉・内藤三左衛門尉ヲ入置レケリ、ソレヨ

	欠引自由ナリ、
į	味方ノ先勢ハ敵ノ先陣ヲ妻
	セト下知シ給フ所二、
	一宮二楯籠ル軍兵共後攻

手
二 見
テ
氏
實
ノ 旗
本
ヲ
心
指脇
鑓
=
突壓
懸レ
近
付 ヲ
見
テ
同時
=
<u>ー</u>
城
戸 ヲ
開
は、アン
ト ⁵ 喚
ァ
懸

出

乍レ
去敵
敵 ヨ
リリ
軍
ヲ 初
\overline{a}
多事ナ
ラ
八一
宮
青
寄
11.
ル
爰
爰ヲ
. 爰ヲ専余
. 爰ヲ専余ト
爰ヲ専余ト揉
. 爰ヲ専余ト揉ニ エ
爰ヲ専余ト揉
: 爰ヲ専余ト揉ニモウテソ
: 爰ヲ専余ト揉ニモウテソ
: 爰ヲ専余ト揉ニモウテソ
. 爰ヲ専余ト揉ニモウ
: 爰ヲ専余ト揉ニモウテソ攻タリケル、
: 爰ヲ専余ト揉゠モウテソ攻タリケ

ト相図ヲ定テ

ヒケン

氏實

ノ旗

本サ

シテ

引

退、

其 勢

五

百

騎

討

シ

ハ下知ナクシテ射放スヘカラス、

若干

悪カリナント思ケン、マハラ成ソ詰ヨノヽト下知シテ

ヲ 先 ハ不」持ト見エタリ、 陳 八 Ξ 町 程 引 退 ク、 家 宮 ァ 康 責 御 寄 覧 ル シ 敵 テ ラ突崩 敵 軍 備 ヲ眼 ヲ 引ヲ 前二討セ、 人 / / ト退 (アマッサエ) 散セラレケリ、 家 康 ジノ御 旗 ブ立 直 家 ァ 康 Ŧ 続

テ不及進、	(進メ及バズ)
、一ノ宮ノ取手へ御馬ヲ入ラレケリ、	
今 五月二十三日出張有テ赤坂! 御陳ヲ被」	

日 軍三 忠 有 ジ輩 ヲ 召出サ し、 御 手 ツカ ラ打蚫 両 城 二 八 今 .]][家 ヨリ 年 来 物二 馴 タ ル **居**至 兵 共 ケル

ヲ

ヲ 被 下 各 走 廻 ヲ 以 テ 年 来 ノ 宿 望 ヲ 達 御 数多入置レケル処二既二明日可被取詰(取り節なずりだす) 由聞へケ

感 悦 ノ 旨 一被仰出、 翌 日 八本野ヵ 原ノ御 陣 場 レハ、 城中ノ敵共御油ノ台ニ馳向テー支サ、アント

ヲ 打 立給ヒ、 **佐** 和 木 八 幡 ヲ左ニシテ敵 ノ 中 ヲ 鏃ヲ揃テ待懸タリ、 家康方ノ兵共ナシカハコロウ

テ 御 帰 陣 坐 (マシマス) 也(マシマス) キ面モフラス馬ヲ入レ 追 詰火花ヲ 散 シ デ 戦

方

円

=

押

ケリ、 今川方二板倉弾正ト名乗テ太刀ヲ真 向

吉田・ 牛久保 J 両 城 ノ根城 ′′Ξ 置 カサシ甲ノシコロヲ傾テ面モフラス切テ懸ル、 味方ノ

去 程

家

康、

佐

和

木

八

幡

取

手

落

城

事

力 レ タ ル 佐 和 木 八 幡 ノ取手 ヲ可被攻 トテ同 兵 共 喚 テ · 懸合ヤコヘヲ上テ爰ヲ専 途 戦 ケ ルニ

究竟
J
兵
_
-
· 余
人
打
捕
勝
鬨
ヲ
作
テ
懸
立
ケ
事
共

事共ナリ

ルニ、討モラサレタル兵共ナシカハコロウヘキ、其マヽ

吉田城明渡事

城ヲ明退散シケリ、家康御弓矢ノ御威光ニ

去

程二吉田ノ城二八近日家康ヨリ可被責

|

依テ所々ノ城 槨 或八明渡、或八降人ト成テ御(ラク)

聞ヱケレハ、近日宗徒ノ勇士六百余騎入置レケリ、

然

手!|属スル者多カリケリ、牛久保ノ城主牧野新次

||喜見寺ノ取手||八内藤三左衛門・石川日向守・鵜

郎、野田ノ城主菅沼新八郎、二連木ノ城八戸田

八郎三郎都合三百五十余騎、糟塚ノ取手ニ

殿

因幡守、下祥白井設楽越中守、西郡片野原

八大久保七郎右衛門尉

小栗仁右衛門

戸

田

因

幡

守其勢二百余騎昼夜ノ境モナク持楯搔楯

竹谷西江桜井其外東三河不残降人卜成、則人

城中二モ爰ヲ専途ト防

戦

質ヲ 取面々其侭彼城二指 置ル、 目出タカ パリケル ツキヨセノ、責ラル、

三河記 一名三遠平均記

ケリ、
既后
昭 日 八
攻ホサ
リルへ
キト有な
ケレハ
敵ノ
ノ 要 害
於甲府晴信、
家老人
万面々
ブ召テ宣ヒ
ケルハ、
去ル比

見八ケノタメ、家康馬廻五百余騎計ニテ打出給家(含ケノ)

康一宮合戦勝利ノ勢ニヨッテ氏實領内吉田

所二、敵城外指テ切テ出、散々二戦ケル、爰二本

牛久保ノ両城ヲ責落、三遠両国ノ諸士大方降人

詰鑓ヲ合、終ニ首ヲ捕テ大将ノ見参ニ入タリケ

多

平

八

郎

今年十六歳

ト 名

乗

テ 敵

城 際

迄 追

ト成由、

然ル(後ヵ)

駿河『可働出事必定ナリ、(働き出りべき)

元ヨリ

信長トハー味ノ事ナレハ加勢有テ両旗発向スル

ル、御感悦不斜、扨、城中ノ兵共駿河『ノ通路ヲ

程ナラハ駿河ノ城落居スヘキ事疑ナシ、然ルニ先

フサカレ兵粮モ乏ク成シカハ不ゝ叶トヤ思ヒケン

年義元存生ノ砌和談契約ノ上ハ今以如何テカ

明レハ八月十五日城ヲ明渡ケリ

可見放ニアラス、急駿府『加勢スヘキ、ト有レハ各(鼎素(マキ)

家康与晴信国切兼約事

則跡部大炊助ヲ以テ申送ラル

三河記 一名三遠平均記

処
氏實
家老ノ面々ヲ召テ宣ケルハ
、晴信ヨリ
国切兼約ノ儀
、聊以異儀ヲ
存間敷トノ御い

加 勢 J 事 定 メ、 後 々 八 当 国 可押領 テタテニテ (押領スペキ) (手段) 事ナリ、 カヽリシ程二晴信、 駿河国退治セントテ甲斐・

返

有ラン、 聊以不可承引、(マナサカカモツト療引スベカŋラス) 其旨委 女可申渡 (申シ渡スベシ) ト仰

信 濃 ・上野三箇国ノ軍勢二万余騎ヲ卒、 永

ケ Ϋ́ 大炊助承急帰参致シ委細申上ケレ Ň

禄十一年戊辰十一月二十八日、(一五六八年) 甲府ヲ打立給、 下

晴 信宣ケルハ、 然上八不及是非、(ぜひ三及バズ) *家康ト国 切 兼

Щ 通 ヲ段々二押給フ、 氏 實 此 由ヲ 聞 給 則 軍 J

約スヘキトテ、 Щ 縣三 郎兵衛ヲ使トシテ 岡 崎 ^

手 分ヲ定ラル、 先薩 埵 Щ ^ 八 庵 原 千 五 百 余 騎

被申越 旨、 遠 江 ブ儀 ハ大井川ヲ境

-

シテ

御

手

ニテ馳 向 フ、 八幡平ヱ 八 岡部忠兵衛 小 倉 内 蔵 助

柄 次 第 可被切捕 侯 、 河 \exists IJ 駿 河 J 事 八 信 玄

ヲ 侍大将ト シテ今川 家十 八人衆 都 合其

自 カ ヲ 以テ可切捕 侯トノ趣ナリ、

家

康

聞

召

千 余 騎ニテ堅タリ、 氏實 旗 本 八三千余騎 清 見

マテ段々二陣取ケルカ、旗ノ手シトロニ成テ見ヘケル	二陣ヲ取、敵ノ備ヲ見渡セハ清見寺・薩埵山ノ際	寺二扣ヱ給フ、 去 間 信玄、長塚ヲ越テ宇津・扶佐
習ノ侍大将四人ヲ遣シ駿府ノ城ヲー片ノ煙	斐ナクソ見エケリ、信玄此由聞給ヒ旗本近	ヘコラヱスシテ土岐ノ山家へ引籠ラルヽ、餘云甲

処 =	
、武田家ノ侍大将山縣三郎兵衛三千余	
ト焼払運ノ末コソカナシケレ、甲州勢今度ハ	

ケン三百余騎ヲ引分駿府ヲサシテ引退ヲ見テ	騎ニテ押寄ヲ見テ朝比奈兵衛尉如何思ヒ
案ニ相違シテコソ覚ヘタル、同十三日氏實八旗	定テ手痛合戦ソ有ラント兼テ思ヒケル処ニ 60

丸		
多三巻 戈モニ・コヘレ・・		
とし		
_ `		
\		
レ、、、		
子 置 其 ス		
ト十二テ系川ヱ川管ラレ		
ニティ		
恋 		
上 		
臣ラ.		
レ、、		
、		
E 月		
上於		
月七六十		

	林列一写字书题的一个引入了。
	E 算 放 之
「	オ言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	功 当 草 七 秀 佑 叶

信玄 計ニテハー 目 浅 ノ先手七頭続テ寄ケレハ、 軍釻 戦難」成ヤ思ヒ給ヒケン駿府。引返給 ナヲ駿府ニサ 守 奉守護シケル 浜 松 城 明 渡 が并 懸]]] 落 城 事

永禄十二年 己巳三月 五 旦 家 康 遠 州 表 ヱ 可 レ

近 • 菅 沼 新 八 郎 都 合其 勢 三千 余 騎 御

旗

右

有 発 向 | テ 八 千 余 騎 J 着 到 ニテ 出 崎

ヲ

打

本八石川伯耆守・本多肥後守 同平八郎・ 天野三

<u>寸</u> 給 ヒ吉田二着セ給、 爰二両日逗留アツテ諸 勢

> 兵 衛・ 高力与左衛門以上二千余騎、 先 陳 八荒

郎

ヲ揃

切

所

直

一
ク
道

脇

道ヲ委細ニ絵図ニ記

備

J

井

ノ渡ヲ越、 段々二備ケル、 後陳 八味方ヶ原 二満々

次第 ヺ 定ラ ١̈́ 先 陳 八 酒井左衛門 尉 本多豐 後

•

タリ、

大将本坂二御馬ヲ立ラレ

シカ

八久野三郎

衛 門 味 方二参、 鴨江 持ノ寺 家 • 見 付 中 泉二其

守 • 石川 日向守・ 松 平 · 弥 左 禬 門 植 村 出 羽 守

小

栗

仁

右

衛門都

合三千五

百

余

騎

後

陣

八

酒

外 池 田 郡 J 者共参陳 仕 御 礼 申 上ル サ テ 浜 松

井 雅 楽助 松平 玄蕃 允 加 藤 播磨守 平岩七之

城 (二八飯) 定豊 前守楯 籠 ケ **、**ルカ、 小勢ニテカ イカ

助 松平紀伊守・戸田因幡守 牧野新次郎 S·松平

タクヤ思ヒケン同八日ノ未明二城ヲ落、 懸川 · ブ 城 ニ

左

引 Ŧ ル 角テ 家 康 浜 松 ^ 御 本 陳 ヲ 移 サ セ 給 見参二人ントテ五千余騎ヲ三手二分、 轡ヲ

爰 二 一 日御逗留有テ天竜 川二船橋ヲ可」渡旨 真一文字二懸出タリ、

寄手ハ少モ騒スシツマリ返

揃

テ

被仰付、 久 野 三郎左衛門奉 テ 日ノ間懸 渡

テ 待 懸タ ij 敵勢勝二乗テ面 モフ ラス切懸 ル

明クレ 八十日、 先陳八懸川 ノー里此方二陳取テ鶴

手 八 兼 テ 相 図 ヲ定シ事 ナレ 八 先 陣 後 陣

寄

翼二備 タリ、 同十二日、 大将ハ 相谷二本陣 ヺ **居**会

ツニ成テ叫

喚

テ

· 責 戦

フ、

打合太刀

J

鍔

音、

両

陣

二作ル時ノ声、 天地モ打返計二聞ヱケル、 或八馬-

上

ラ シ 力 Ń 先 陣 八 懸 Ш 城 近 ク 陣 ヲ 取 寄 タ ij

ヨリ 組テ落捕 テ押ヘテ首ヲ捕モ有、 トラル Ŧ

去 程 = 懸][[城 二 八 各 指 集 テ 評 定 シ ケ ル 八 敵

或 八 尋 常二名 乗 テ 鑓 デ ヲ 持 テ 勝 負 ヲ 決 ス ル 者

八

長

途

ヲ

打

テ

人

馬

共 二

疲

タ

'n

待

テ

戦

八

ン

 \exists IJ 八 イサ費ニ乗テ逆寄ニシテ追払、 大将ノ

> モ多カリケリ、 敵モ味方モ互!!引ナトハジシメテ

時移迄戦タリ、	
元来駿河勢ハ小勢ナレハ荒手	
死仕リ	
戦ノ下	
二可奉報君恩ニテ	(君恩二報ヒ奉ルベキ)
候、上,	

J

御

替 ル味方モナク終二打負、 城 中 サシテ引退ク 事 八 方ヲ打破テ Ŋ١ 田 原 方 ^ Ŧ 御 開

J

有

^

此 時 城方二八二 百余騎討レ ケ ij 角テ 寄 手 J キニテ候、 ト誠二余儀モナケニソ申ケル、 然 ベル処

兵 懸 Ш 城 ヲ 十 重 二十重 <u>三</u> 打 囲 テ 昼 夜 ノ 境 = 畄 部 次 郎 兵 衛 尉進 出テ 申ケ Ĵ٧ 八 備

モナク詰寄々々攻タリケ į 城 中二八朝比奈備 討死 ゚゙ノ 儀、 努々不可然トコソ存候へ、(パスパス) (然えくなりえ) 上ノ御大

中守、 氏實 ノ 御 前二参テ申 ケ ĺ٧ 八 先 爰 ヲ 車 事、 今此時ニ可」限ニテモ候ハ子 八一 人成共命

・雖防戦侯ト、(応戦候ト雖モ) 在々所々大形敵 地 ト 罷 成 侯 工 八 全 シ テ 君 J 御 専 途 ヲ Ŧ 奉 レ 見 候 八 ン 専 J

可 レ 開 事 難 レ 叶 存 侯、 未学 勢 力 ツ 忠 義ニテ候 能
 7
 思 案 被 廻 **た**(ソコツ) ナ ル 不 可

ノ御目ノ前ニテ紛ナク討 有討死 死 候、 大将ノ御事ハ何カ苦シク候へキ、 匕

+

八

テ

侯ヌ以前二大将

当

城

ニテ

御

運

途

|

ヺ

中

· 守

賞罰糺シキ此君ノ御行末、万歳トノミ奉仰(雪)を	ヶ候トソ申ケル、則家康聞召、御合点有テ明
仰出、或八褒美ヲ被レ下、因レ茲弥励忠功者也、誠ଖタサルン	各身命ヲ被▷助置ハ相違ナク城ヲ可明渡□
被打随条誠以テ御感悦不斜ノ旨再三 被(エットᲚーットル)	日向守責口ナリシカ、朝比奈弥太郎行向テ
輩御前へ被召出、各勲功励ニヨリー国平均ニ	宣ヒケル、桑田村ノ取手二八酒井雅楽助・石川
勢八中泉ニ充満ケリ、此度ノ合戦ニ忠功有シ	タル計ニテ兎モ角モ面々可然様ニ被レ計候へト
門尉ヲ籠置レ、御本陳八見付へ移シ給フ、諸	稽ノ恥ヲニート候、ト諌申ケレハ、氏實八唯惘然
左衛門尉・石川伯耆守・同日向守・本多作左衛	原へ御開候テ重テ両旗ヲ以テ可被雪会
小田原▽落行給ケリ、去程□懸川城□ハ酒井	大将北條氏政ハワリナキ御味方ニート候へハ、小田
ル十五日辰ノ刻ニ氏實父子三千余騎ニテ相州	トマツ御降参被」成可」然存候、其故八五ケ国ノ

翌日八浜松城ュ入セ給フ、

目出タカリケル事

(貼り紙)

元治二丑年三月十一日以(一八六四年)

篠木

高山